


**一般社団法人 全国高等学校PTA連合会**


一般社団法人全国高等学校PTA連合会  
 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757  
 発行人 相川順子 URL <http://www.zenkouren.org/> eメール [info@zenkouren.org](mailto:info@zenkouren.org)

# 「保護者が集い学び、大きな輪を」



▲24年度新役員

組織等検討委員会では、組織運営の見直しや会費の値上げというこれまでになかった大きな課題を議論いただきました。会費の値上げは各都道府県市連合会にとっても大きな

問題ですが、PTA活動の意義や目的について理解し、一定の方向に向かって結論を出していただいた事に感謝申し上げます。

東日本大震災を機に、地域の絆や、人と人の絆の大切さを痛感しております。「家庭・学校・地域の連携」が叫ばれてきました。また学校が家庭があり、また学校が地域の中にもあります。その地域社会の中で高校生を育てるために、保護者が集い学び、大きな輪を作り、学校を支援していかなくてはなりません。

全国高P連では、今後とも高校生の課題に真正面から取り組み、皆様のご協力をいただいて、更に充実した活動をしていきたいと考えております。何とぞ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会長あいさつ  
6月23日に行われました平成24年度総会において、会長の再任を受けました。2期目を迎えるにあたり、なお一層緊張感を持って臨む所存でございます。

さて、全国高P連は、今年4月1日に「一般社団法人」の認可を得ることができ、新しいスタートを切ることになりました。ここにたどり着くまでには解決しなければならぬ多くの課題と、それを期限付きで作業をしなければならぬ状況がありました。皆様方と議論を交わしながら、前に進めることができました。

な問題ですが、PTA活動の意義や目的について理解し、一定の方向に向かって結論を出していただいた事に感謝申し上げます。

東日本大震災を機に、地域の絆や、人と人の絆の大切さを痛感しております。「家庭・学校・地域の連携」が叫ばれてきました。また学校が家庭があり、また学校が地域の中にもあります。その地域社会の中で高校生を育てるために、保護者が集い学び、大きな輪を作り、学校を支援していかなくてはなりません。

全国高P連では、今後とも高校生の課題に真正面から取り組み、皆様のご協力をいただいて、更に充実した活動をしていきたいと考えております。何とぞ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会長あいさつ  
6月23日に行われました平成24年度総会において、会長の再任を受けました。2期目を迎えるにあたり、なお一層緊張感を持って臨む所存でございます。

会長就任あいさつ	1頁	スローガン「切磋琢磨、そして挑戦！」	
平成24年度総会報告	2頁	地区大会報告	
各委員会報告	3頁	北海道地区・東北地区	6頁
シリーズ青春白書 全国からの便りー輝く姿がここにありー	4頁	関東地区・北信越地区	7頁
静岡県立沼津西高等学校	4頁	東京地区・東海地区	8頁
校訓「克己」花ひらく芸術文化と夢を叶える伝統校	4頁	近畿地区・中四国地区	9頁
東京都立小平南高等学校	5頁	九州地区	10頁
校訓「翔く」	5頁	シリーズ視点「東日本大震災義援金報告」	10～11頁
目標「ゆたかな心と確かな学力を育てる学校」	5頁	平成24年度役員・委員名簿	12頁

平成二十四年度

一般社団法人全国高等学校PTA連合会定時総会報告

会費値上げ全会一致で可決

6月23日、東京お茶の水にある東京ガーデンパレスにおいて一般社団法人に移行して初めての定時総会が開催された。

来賓は文部科学省生涯学習政策局社会教育課長伊藤学司氏、総務省総合通信基盤局消費者行政課長玉田康人氏、日本PTA全国協議会会長相川敬氏、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会副会長松川伊三氏ほか。

総会に先立ち、義援金の第4次配分として東日本大震災で大きな被害に遭われた福島県高P連23年度会長渡辺健二氏に相川順子全高P連会長から目録と共に手渡された。渡辺健二会長が被災されたPTAと生徒に代わって、義援金を寄せられた全国の方々に対してお礼の言葉を述べた。総会では、相川順子会長、来賓の挨拶のあと、議長に大分県高P連会長三浦啓亨氏を選出し、議事に入った。



▲福島県高P連に渡される

一号議案・23年度事業報告、二号議案・23年度収支計算書・東日本大震災に係る義援金の収支計算書、監査報告について、本部事務局・各委員長・代表監事による報告があり、両議案は満場一致で可決された。

監査報告では「経費削減には一定の成果が見られたが、なお一層の改善を図らねばならない。また、今回も「補助金に頼らない自主事業への取り組みを図りたい。」との意見が付されていた。これを受け、今後も組織運営と財政の構造的な見直しを早急に図る必要がある。



▲会長就任挨拶風景

第3号議案・全国高等学校PTA連合会会費規程変更案（会費の値上げ案）については、昨年度第2回総会（本年2月11日）において、一定の御理解をいただいていたため、加盟費の変更案は反対者なしで可決された。続いて第4号議案・全国高等学校PTA連合会定款施行細則の一部変更、第5号議案・第61回全国大会北海道大会決算報告も全会一致で可決承認された。

第6号議案・平成24年度役員選任では、これまで地区2名であった役員は、昨年度第2回総会で1名を減じた決定を行った。総会は7議案が全て可決承認され、閉会となった。（本部事務局）

義援金受付の継続

東日本大震災以後、今なお被災地の復旧・復興が長期にわたる見通しであることから、今後も長期にわたって被災された子どもたちへの支援が必要であると考え、義援金を募る活動を継続いたします。今後とも全高P連の趣意にご賛同を賜り、全高P連の義援金活動にご協力くださいますようお願いいたします。

楽しい、元気がでる！そして、ためになる。

高校生新聞®



高校生スポーツ®



高校生新聞・高校生スポーツは、全国の高校生の活躍、勉強法・健康管理などのアドバイス、ニュース解説、進路情報など、高校生の生きる力と知恵をはぐくむ情報が満載です。高等学校の教室で愛読されているほか、ご家庭でもご購入いただけます。取材のご希望も歓迎です。編集部までご連絡ください。

この秋 ホームページが生まれ変わる!!  
「スクツちゃ」誕生!!

SP 株式会社 スクールパートナーズ  
School Partners  
高校生新聞社

http://www.koukousei-sinbun.co.jp/

おかげさまで 20周年  
高校生新聞 創刊 200号

本社：〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10  
TEL.042-725-1155 henshu@koukousei-sinbun.co.jp  
西日本支社：〒552-0013 大阪府大阪市港区福崎3-1-148  
北海道支社：〒060-0807 北海道札幌市北区北七条西4-8-3

●1993年創刊 ●全国4,000校(2,785,309人)の生徒が愛読  
●タブロイド判オールカラー平均24ページ ●毎月10日発行(8・3月休刊)

# 各委員会報告

## 健全育成委員会

委員長 橋本 博文

第1回健全育成委員会で今年度の取り組み3つのテーマが確認されました。

①薬物乱用防止について。

『脱法ハーブ』が回っています。一度の使用で致命的な症状が見られるなど大変恐ろしい薬物です。「薬物乱用防止パンフレット」でも特に注意を喚起していただきます。

②スマートフォン利用の課題について。

携帯電話とスマートフォンがそもそも似て非なるものであることを保護者が認識する必要があります。スマートフォンは通話もできるパソコンです。総務省のご協力も頂いてセキュリティやフィッシングなどの課題について考えていきます。

③交通安全マナーの向上について。

『バイク3ない運動』によりバイクの事故がゼロではありませんがかなり少なくなりました。

かし最近では自転車による事故が増えています。音楽を聴きながら、携帯電話の操作しながら運転する高校生を見かけます。マナーの向上を呼びかけます。

『高校生の実態調査』アンケートにつきまして

は、従来とは異なり本年はアンケートの内容を協議し、実施は来年度となっております。

健全育成委員会では『すべては子供たちのために』を合言葉に全力で今年度の事業に取り組めます。

## 進路対策委員会

委員長 毛利 一朗

第1回進路対策委員会において、前年度引き継ぎ事項及び、平成24年度に取り組むテーマについて、協議確認を行いました。

第1の事業として、「就職促進に関する関係諸機関への働きかけ」を検討、厚生労働大臣・文部科学大臣宛に要望書を提出す

ることに決定。今年も、新規卒業者、既卒業者の雇用確保・促進を要望。また、秋に向け、再度要望書を作成、キャリアサポート事業の継続も要望予定。

第2の事業として、「高校生と保護者の進路に関する意識調査」は、2年に一度実施してきたもので、昨年度の結果が、リクルート社から「高校生と保護者のためのキャリアアゲイダンス」等として配布されています。これを広く保護者等に利用して頂けるよう、広報に努めていきます。また、来年アンケートの実施に向けて、方向性を検討していきます。

最後に、本年度からの課題となった、「大学の秋入学」についての調査研究は、新聞報道等で一部の大学が検討していることがわかっていきます。が、方向性や、具体的な時期等がまだわかっていません。情報収集から始め、今後、入試制度への影響や、進学への影響、就職活動の変化等を調査研究していきます。早い情報発信を行う事で、高校生が安心して学べる環境を作っていくしたいと思います。

## 調査広報委員会

委員長 関根 英樹

平成24年度の重点事業は次の5項目です。

①「全高P連会報」の年3回発行②一般社団法人に移行に伴う会報の題字やフロントの刷新③親しみやすく、読みやすい紙面構成の検討④全国会員への会報の周知徹底⑤ホームページの再構築。

会報については、今年度から8月下旬の全国大会会場での配布をとりやめたことから、9月に第73号を発行しました。内容は、これまでの企画を踏襲しながら、より見やすく、読みやすい紙面にするため、さらに紙面構成を検討していきたいと思えます。

一般社団法人移行に伴う題字とフロントの刷新については、理事会等を含めて検討を重ね、今回の形になりました。

引き継ぎにおいて、会報が読まれていない、現在のアピール不足、段組の検討、写真の有効活用、ホームページが見られていないなどの課題が示されたことから、それぞれの課題の解消についても、積極的に取り組めます。

また、全国に広がる委員間の連絡を密にし、課題を共有し、紙面について互いに検討できるようにしていきます。

ホームページについては、活用方法にさまざまな意見があることから、事務局と供に鋭意検討を重ね、よりよい活用方法を考えていきたいと思えます。ご意見等を含め、皆さまのご協力よろしくお願ひします。

## 研修委員会

委員長 金井 修

今年度も、相川会長のもと「子供たちの為に」を忘れることなく一番の基本とし、研修委員会を運営して行きたいと思っております。

そのために行う本年度の行事としては、以下の通りです。

①全国大会への支援と協力（平成24年度和歌山大会に向けて問題点の最終調整、平成25年度山口大会支援のための研究協議、平成26年度福井大会の分科会テーマ決定）

②全国大会開催ガイドラインの施行（全国大会開催ガイドラインについて、基本的事項を確定させ、現状に照らして確認及び検証・検討する。全国大会開催ガイドラインを全国大会運営マニュアルとして施行させる）

③調査研究のまとめ（平成24年度和歌山大会の各分科会レポートを作成し、まとめ、平成25年度山口大会に活かす）

④全国大会の申し込みをWEB化する（従来のFAXによる申し込みを近年の環境変化に合わせてWEBによる申し込みにシフトさせる）  
以上の行事を遂行することにより、今後行われる全国大会をより充実した大会になるよう支援して行ければと思っております。

# 静岡県立沼津西高等学校

## 校訓「克己」 花ひらく芸術文化と夢を叶える伝統校

【白砂青松、富士山を臨む景勝地】



静岡県沼津市の狩野川河口から富士市田子浦港の間一〇キロは、通称千本松原（正式名称富士海岸）と呼ばれ、日本百景、日本の白砂青松一〇〇選にも選ばれる景勝の地です。本校は南に千本松原、北に霊峰富士を臨む落ち着いた自然環境に恵まれています。近くには井上

靖の文学碑や、若山牧水記念館などがあり、古くから文人墨客に愛された土地です。

### 【学校概要】

本校は明治三十四年に私立駿東高等学校として開校し、何度かの改称を経て、昭和二四年に現在の校名になり、昨年創立一〇周年を迎えました。歴史と伝統に育まれた卒業生は二万五千人を超え、国内外で活躍する有為な人材を輩出し続けています。校訓は「克己」で、自らの意思で自らを律し、強靱な精神力を養うことを目的としています。

### 【特色ある教育活動への支援】



### ①芸術科

平成十五年設置、定員は四〇名で、音楽・美術・書道の各専攻に分かれています。専門の教諭・講師による指導や個人レッスンなど少人数授業のほか、外部講師や演奏家・作家を招いての講習会、公開レッスン、基礎を鍛えるデッサン指導など、本格的な芸術教育がなされています。また、芸術科一・二年生演奏・展覧会や卒業演奏・展覧会をはじめ、小学校でのコンサート・書写指導、市民文化センターでの演奏会、依頼を受けての展覧会やパフォーマンスなど、地域社会への貢献活動も積極的に行っています。進学面では、芸術大学への進学校として、東京藝術大学をはじめ、各音大・美大・四年制大学教育学部書道科へ毎年、多くの現役合格者を送り出しています。

②普通科  
個性を生かす教育課程



と、幅広い科目選択および小集団指導により、「確かな学力」の定着を図っており、本校独自の学校設定科目や校外学修制度、年4回の学習方法指導、家庭学習の充実にまで手厚い指導が及んでいます。また、一般クラスとは別に、積極的に国公私立大学合格を目指すSクラスも設置しています。

また昨年から「基礎学力達成ストーリー」を始動し、以上の基礎学力の定着と進路実現を目指しています。PTAでは生徒の学習支援として、放課後や土曜講習を行っています。保護者と教諭が一丸となって「夢をあきらめないあきらめさせない」を合言葉に、旧帝大・難関大をはじめ各大学に、ほとんどの生徒が現役合格を果たしています。

③全国レベルの部活動  
運動部・文化部あわせて二十六の部活動は、全

員参加でほぼ毎日活動しています。PTAの支援により、外部指導者の指導も受けている部活動もあります。箏曲・美術・書道・自然科学・陸上・フェンシング部は今年度、全国大会に出場しています。

### 【学校防災への支援】

本校は平成二十四・二十五年度学校防災推進協力校に指定されました。本校の校舎は県から津波避難ビルとして指定される他、「東海地震に対する耐震性能が優れている建物」という最高ランクの評価を受けています。東日本大震災以来、全校あげて防災意識も高揚し、防災リーダーの育成、緊急避難訓練の実施、研修による通学路上の避難ビルの確認、防災備蓄品の管理、総合防災対策計画書・危機管理マニュアルの周知徹底、また生



徒会やボランティアの生徒による被災地訪問など数多くの取り組みがなされています。

PTAも防災点検や校内避難場所の安全確認に取り組んでおり、先日も屋上の広さや安全性、避難方法の点検が行われました。また高架水槽の震動による安全弁の作動、遮断時のリセットなどのチェックも行われ、停電時の課題についても検討がなされました。

### 【学校に寄り添うPTA活動】

本校のPTA役員は、本部役員十二名、十七の地区の地区長、三つの専門部理事から成っています。五月のPTA総会をはじめとし、広報誌「駿風」の年三回の発行、地区会、夏祭りの街頭指導や交通安全指導、潮音祭でのバザー、校内進路講演会の実施、校内長距離

離走大会での炊き出しなど、温かく生徒を見守る活動を行っています。今年は一斉メールの導入を提案・実施し、緊急時等、保護者等へのスムーズな連絡を可能にしました。



【校章の詩】

はじめ校地は、ただ一面の平地で、樹齢を重ねた見事な榎と銀杏の木々があるだけだった。亭々と聳える六本の榎は、東の際に一列に並び、そのまま正門を守って残り、二十本の銀杏も校内の各所に大切に移植されることになった。これらは、遙か以前からこの地にあつて、本校創立の歴史を刻み込んでいくべき木々である。私達は、その榎と銀杏を本校の象徴として、校章とする事とした。

【学校の特徴】

東京都立小平南高校は、緑多い武蔵野の面影が残る東京西部の小平の地に、昭和五十七年、全

東京都立小平南高等学校

校訓 「翔く」

目標「ゆたかな心と確かな学力を育てる学校」  
スローガン「切磋琢磨、そして挑戦！」



校章と正門に建つ「翔く」の銅像

【特色ある学校行事】

【幾多のドラマ】

【完歩の先にあるもの】

開校以来30年続く健脚大会は、奥多摩駅から本校迄、最長50キロを、4〜5名のグループで12時間かけて歩くという最も

教職員の実踏により、間違い易い要所には約七十枚の道標が前日に

ゴールでは、おかえりという拍手と、ほっとした安堵感から泣きたくなる様な気持ちと、140名以上の保護者が前日から準備した恒例の美味しい豚汁が生徒たちを迎えます。



▲約70枚の道標

▲保護者の豚汁作り

【活発なPTA活動】  
毎年9月の第二土曜、日曜日に一般公開される文化祭、公孫樹(いちよし)祭は、2400名近

貼られます。5年前の二十五回大会では、突風により道標が飛ばされてしまい遠回りした為、2時間も到着が遅れた事がありました。昨年の二十九回大会では、地震による道路の崩落で45キロ〜50キロ地点が通行止めとなり、最長45キロに短縮される等、記憶に残るドラマが毎年起ります。

【地域、学校と共に】  
学校説明会では、5回で1500名の参加が得られ、盛況です。PTAとしては、在校生の保護者の立場から質問コーナーで協力させて頂いています。

来場者があります。PTAでは健脚大会に次ぐ、イベントとして、積極的に参加しています。1、2学年委員の模擬店では、おにぎり、パンや飲み物の販売、3学年委員PTAコーナーでは無料の喫茶サービスを行っています。教養委員は、毎年工夫を凝らした手作りコーナーを担当し、来場者に憩いのひとときを提供しています。

3年前導入した一斉メール配信により、各種催し物の案内や、PTA広報活動の配信率が格段に向上しました。加入率90%。  
広報活動では、PTA会報誌第84号を先月発行しました。東京都立高等学校PTA連合会主催の広報誌コンクールへも応募し、冒頭の校章の詩と「翔く」の像を表紙にした79号が特別賞を受賞しました。



ライオンキング観劇会と夕食会

受験生を持つ親の心得を学ぶ進路講演会、近隣の小学校PTAと合同で行う交通調査、教養委員会主催のミニコンサート、講演会や観劇会。最近は、ライオンキング等劇団四季の観劇会が好評。教養委員会では、会員相互の教養を高め、親睦を図る楽しい企画を提案しています。ミニコンサート、講演会、バス研修会、観劇会等です。2

近隣住民や見ず知らずの方から、生徒の善行に感謝するお電話や手紙を戴く等地域に愛される高校として誇りを持っています。

### 北海道地区 旭川・留萌大会

#### 価値観の多様化時代、子供たちの主体性を育む意欲的なPTA活動を



第62回北海道高等学校PTA連合会大会旭川・留萌大会は6月15日(金)・16日(土)の両日、旭川市を会場として、全道13支部の252校・1160余名が一堂に会し開催され、大会初日、午前中の総会では各案件の承認と役員改選が行われました。役員改選では、昨年の全国高P連大会北海道大会委員長も務めた「榎原綾子会長」がご勇退し、その後任には「中島圭副会長」が選任されるなど、新旧役員の交代が承認され、ご退任される役員へのねぎらいと、新役員を激励する温かい拍手が送られました。



午後から行われた開会式では、中島圭副会長が「昨今の価値観の多様化は子供たちをはじめ家庭、地域、教育現場など社会全体に大きな変化を与え、子供たちを取り巻く環境にも影響を与えています。私たちPTAはこの時代の状況を正面からしつかりと捉え、いかに対応し、いかに即応できるかが求められています」と、PTA活動の重要性を強調しました。

次に、開催支部を代表して蜂谷規彦実行委員長が「ようこそ、雄大な大雪山、夕日に輝く黄金岬に!」「未来を担う子供たちのために、今、PTAとして何をなすべきかを共に考え、学び、交流しましょう」と歓迎の言葉を述べました。

また、功績者への表彰状・感謝状贈呈が行われた後、相川順子全国高P連会長が「子供を伸ばすきっかけを作る大人の存在が大切」と会場の保護者に呼びかけるなど、ご

来賓から心のこもった祝辞をいただきました。引き続き、北海道出身で現在北海道に在住する講演師「神田山陽」氏の講演会「明日への講談入門」が開催されました。そのパワー溢れる話術で会場を爆笑の渦に巻き込みながらも、一人一人に「自らの人間としての在り方生き方を考えてみてください」と問いかけてくださるような、示唆に富んだご講演でした。



翌日、旭川東・旭川商業両校を会場に、41の分科会に分かれ熱心な意見交換をして全日程を終了しました。



翌日、旭川東・旭川商業両校を会場に、41の分科会に分かれ熱心な意見交換をして全日程を終了しました。

### 東北地区 福島大会

#### 「力強く生きる 明日へ」

第61回東北地区高等学校PTA連合会福島大会は7月12(木)、13(金)の両日、福島市で開催されました。東日本震災の影響で7月の通常期の開催は2年ぶりです。震災からの復興に向けて頑張る高校生を、保護者と教職員、地域が一体となつて応援していくことを誓い合いました。



「地域社会と共に在り、共に歩むPTA FUKUSHIMAから始まる新たな絆」

み桜の聖母短大教授が司会を務め、瀬谷真理子福島県社会教育課長と高橋正人白河高校校長が助言者となりました。山形県真室川高校の栗田明会長、秋田県湯沢翔北高校の赤平一夫会長、青森県弘前高校の新渡戸洋輔会長、岩手県大船渡東高校の新沼英明会長、宮城県米山高校の佐々木昭宏会長、福島県原町高校の木村浩之会長がそれぞれの自校の現状や課題、展望などについて興味深い発表を繰り広げました。

「力強く生きる 明日へ」を大会テーマに「地域社会と共に在り、共に歩むPTA FUKUSHIMAから始まる新たな絆」をサブテーマに、東北六県から約1500人が参加しました。

研究協議は西内みなみ桜の聖母短大教授が司会を務め、瀬谷真理子福島県社会教育課長と高橋正人白河高校校長が助言者となりました。山形県真室川高校の栗田明会長、秋田県湯沢翔北高校の赤平一夫会長、青森県弘前高校の新渡戸洋輔会長、岩手県大船渡東高校の新沼英明会長、宮城県米山高校の佐々木昭宏会長、福島県原町高校の木村浩之会長がそれぞれの自校の現状や課題、展望などについて興味深い発表を繰り広げました。

初日の12日は、大会運営会議と研究協議委員会の後、福島市中心部のサンパレス福島でレセプションを催しました。

記念講演は、福島県小野町出身で醸造学・発酵学・食文化論の国内第一人者の農学博士小泉武夫東京農大名誉教授が「食で東北を立て直せ」と題し、講演しました。

大会冒頭の開会行事で

は橋内善雄大会実行委員長が開会の言葉を述べ、関根大会会長、工藤重信全高P連副会長があいさつ。佐藤雄平福島県知事、佐藤俊市郎福島市教育長が祝辞を述べました。新役員紹介に続いて行われた次期開催県あいさつで、山形県の奥山優佳会長を中心に、趣向を凝らした山形県紹介が会場を沸かせました。

大会冒頭の開会行事で

は橋内善雄大会実行委員長が開会の言葉を述べ、関根大会会長、工藤重信全高P連副会長があいさつ。佐藤雄平福島県知事、佐藤俊市郎福島市教育長が祝辞を述べました。新役員紹介に続いて行われた次期開催県あいさつで、山形県の奥山優佳会長を中心に、趣向を凝らした山形県紹介が会場を沸かせました。



初日の12日は、大会運営会議と研究協議委員会の後、福島市中心部のサンパレス福島でレセプションを催しました。

関東地区 千葉大会

絆(きずな) 深めよう地域で、学校で



全大会が行われました。

心配された天候でしたが時折晴れ間もみえとて恵まれた天候の中開催することが出来ました。

歓迎アトラクションとして、県立成田国際高等学校箏曲部による素晴らしい箏の演奏が披露されました。

開会に先立って、今大会のスローガン「絆」にのっとり昨年3月11日、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈って黙祷を捧げました。

第58回関東地区高P連大会千葉大会は、7月6日(金)・7日(土)の2日間にわたって関東6県及び山梨県から3000余名の参加を得て盛大に開催されました。

開会式では、高橋孝宏大会会長と全高P連相川順子会長の挨拶に続き、関東地区高P連活動で功労のあった個人・団体に表彰並び感謝状の贈呈が行われました。

大会前日の5日には関東地区高P連総会を開催し各種の議案が承認され埼玉県高P連の熊谷哲郎氏が新たな地区会長に就任されました。

大会初日は、千葉ポータルアリーナを会場として

盛り返った大会宣言文を

大会2日目は、千葉市内四会場で5分科会が行われました。どの会場も多くの方に参加していただき意欲的に情報交換を行うことが出来ました。



採択し滞りなく開会式を閉会しました。記念講演では宇宙飛行士の山崎直子氏を講師に迎え「絆(きずな)を求めて！」宇宙飛行士からのメッセージと題して、宇宙での様々な体験を通してお話をしていた頂きました。特に、「物事をいろいろな角度から見ることに、偏った見方をしなくなつた」というお話が印象的でした。

北信越地区 富山大会

和をもつて響き合え！みんなで広げる 共育の輪

平成24年度北信越地区高P連研究大会富山大会は、7月6日(金)・7日(土)の2日間にわたって富山市芸術文化ホールを中心に開催されました。当日は、あいにくの梅雨空となりましたが、北信越各県から1250名が参加しました。



開会式で毛利会長は「未来に向かってたくましく、心豊かに生きていく子どもたちの成長のためにPTAとして何が出来るか、それぞれのPTA活動の成果を持ち寄り、悩みや不安を共有し一緒に頑張って対策を考える機会となつてほしい」と挨拶、全国高P連の三輪一朝副会長の挨拶、来賓祝辞に続いてPTA活動に功績のあつた30名の表彰がありました。

歓迎アトラクションは、南砺平高校郷土芸能部の越中五箇山民謡の唄と踊りで、「こきりこ」や「麦屋節」等4曲が披露されました。



分科会では、4分科会で合計20本の実践事例が報告され、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

教育懇談会は、おわり保存会による富山県を代表する「越中おわら節」の唄と踊りで始まり、富山県の海の幸に舌鼓を打ちながら、それぞれ歓談

に花を咲かせました。

2日目の記念講演では、富山県出身で、昭和女子大学学長の坂東眞理子氏を講師に迎え、「日本が必要とする21世紀人材」の演題で講演をいただきました。世界で生きていける人材となるには、端的に、具体的にオリジナリティを持つて話すことが出来るコミュニケーション能力が必要であるなど、日本の高校生に在り方について、多くの参加者に示唆を与えていただきました。



文部科学省より新教育課程に関する説明が行われた後、大会宣言が行われ、閉会式では、次年度開催県の新潟県より挨拶があり、最後に毛利会長の挨拶で大会は無事に閉幕しました。

### 東京地区 東京大会

和をもつて響き合え！〜親から子へ、未来につなぐ〜

第24回東京地区高等学校PTA連合会大会は、7月14日に、国会議事堂からほど近い、星陵会館で開催されました。

本大会では、和歌山大会のテーマがまさに今の時代に必要なものと考え、中でも親と子の世代を超えた和と絆をサブテーマとしました。

大会は午後1時に開会、南村和良都高P連会長の挨拶に続き、全高P連副会長三浦啓亨様、東京都教育庁生涯学習課長渋谷恵美様のご祝辞をいただきました。

本大会では、子どもたちも参加できる大会を旨とし、高校生の活動発表の場を設けました。会場の舞台ではダンスと合唱の発表、ロビーでは書道、写真の展示を行いました。

各校のご理解、PTAのご協力もあり、舞台ではダンス5校、合唱2校、展示では書道2校、写真1校の計10校から、約180名もの生徒の参加

がありました。

生徒たちには日頃の活動の成果を発表する場として、親には子どもたちの姿、作品を見ることができ、貴重な時間共有することができました。

舞台の最後では生徒のリードにより、親たちも一緒になって「世界にひとつだけの花」を合唱しました。



続く基調講演には、講師に元宝塚歌劇団の鞠村奈緒さんをお招きしました。オープニングでは「すみれの花咲く頃」の歌声とともに登場、参加者の心をつかんでまいります。



鞠村さんは、ご自身が高校生のとき宝塚歌劇団を目指していた頃の経験と家族の支え、また宝塚時代から現在の子育てに至るお話を、高校生の親の一人として、私たちに語りかけてくれました。

また、実際に体験された阪神淡路大震災の体験もお話しいただきました。

最後は、鞠村さんが次の世代に伝えるため歌い続けている童謡、唱歌、そして宝塚のナンバーを聴かせていただきました。途中、マイクの不調のため、マイクなしで歌うトラブルがありました。が、見事な生の歌声に会場の誰もが演出だと思っただけでした。

本大会の取組みを今後とも生かし、東京地区大会をさらに活性化していきたいと考えています。

### 東海地区 三重大会

「東海は一つ」〜連帯を求めて〜



東海地区高等学校PTA連合会「三重大会」が、

6月15日(金)に津市の三重県総合文化センターで、東海四県から会員約1500人の参加者を得て盛大に開催されました。

開会式は、東海高P連の稲垣元美会長と全高P連の三浦啓亨副会長の挨拶で始まり、来賓の三重県知事の鈴木英敬様と三重県高等学校長協会会長の鎌田敏明様からご祝辞をいただきました。

その後の「研究協議」では、まず三重県立水産高等学校PTA顧問の鶴丹谷正晴様が「生徒とのふれあい」というテーマで発表され、なかでも水産高校ならではの防災

グッズ「サバCAN」の製造の取組は印象的でした。サバは、鯖とサバイバルから、CANは、缶詰とできる意味のCANからとったネーミングの非常食で、東日本震災の被災地に送ろうと生徒の発案で、学校とPTAそして地域が連携して取組まれました。

次に愛知県立一宮南高等学校PTA会長の春日井公成様が「PTAからの発信く家庭との絆づくりをめざして」との題で発表され、高校では会員同士のつながりが薄くなりがちなので、PTA講演会や文化祭での模擬店、PTA広報紙の発行などを通して絆づくりをしている様子が報告されました。



「講演」には、昨年放映されたテレビドラマ「高校

閉会式では、次年度開催の静岡県から挨拶があり、閉幕しました。

### 近畿地区 兵庫大会

#### 人と人との絆を深め 未来を担う高校生と元気を分かち合おう

第38回近畿地区高等学校PTA連合会大会兵庫大会は、「人と人との絆を深め 未来を担う高校生と元気を分かち合おう」を主テーマに、6月30日、7月1日の両日、神戸市において開催されました。

第1日目は、ポートピアホテルで総会、分科会打ち合わせ会、専門委員会が行われるとともに、主会場で式典と分科会リハーサルも行いました。夜は同ホテル内でレセプションを開催し、兵庫商業高校龍獅團の獅子舞のアトラクションあと、来賓を含めて参加者110名が交流を深めました。



第2日目は、神戸国際展示場に会場を移し、2800名を超える参加者で盛会となりました。オープニングアトラクションとして、県立西宮高校音楽科卒業生有志によるアンサンブル演奏が行われました。開会式では、主催者挨拶、来賓祝辞、広報紙コンクール表彰式、感謝状贈呈式、大会宣言採択等が厳粛に執り行われました。



記念講演は、イラストレーター、絵本作家として全国的に著名な永田萌先生が、「夢みる力を育てる」と題して、多数の作品をプロジェクトで提示しながら、子どもの成長にロマンが必要なこと、親もゆとりを持って子育てをすること等を爽やかな口調で講演されました。

した。

午後は、須磨翔風高校和太鼓部による元気の出る演奏を聞いたあと、分科会を4会場で行いました。特別分科会は、「わが子のコミュニケーション力を向上させるには」のテーマで、早稲田大学の森山卓郎先生の基調講演を受けて、生徒を含む六名によるパネルディスカッションが行われました。

第1分科会では大阪府立港高校、京都府立城陽高校、神戸市立六甲アイランド高校の3校が、第2分科会では和歌山県立海南高校大成校舎、京都市立洛陽工業高校、兵庫県立多可高校の3校が、第3分科会では奈良県立西和養護学校、滋賀県立草津東高校、大阪市立高校の3校が、それぞれ実践報告、研究協議を行いました。特別分科会に参加者が偏る問題が生じましたが、各分科会とも会場参加者との熱心な意見交換が行われました。

### 中四国地区 徳島大会

#### 「心つむぎ 志つなぐ」ともに歩もう 子どもたちと明るい未来へ



第54回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会徳島大会は7月13日(金)、徳島市の「アスティとくしま多目的ホール」において、中国・四国各県より1860余名の会員・役員が一堂に会し盛大に開催されました。

開会式では、中国四国高P連・椎野正敬会長、全高P連・相川順子会長、徳島県教育委員会・佐野義行教育長の挨拶、続いて飯泉嘉門徳島県知事、原秀樹徳島市長の祝辞がありました。

続く研究協議では、島根県高P連・澁谷恵子副会長、徳島県高P連・岩

生恭彦前副会長の両氏を議長に、第1テーマ「高校教育とPTA」、第2テーマ「進路指導とPTA」、第3テーマ「地域コミュニティとPTA」について、実践・研究発表が行われました。第1テーマでは「高校教育とPTA」出会い・ふれあい・絆の輪」と題して、岡山県立倉敷工業高等学校PTA・清水美佐代副会長、第2テーマでは「面接官はPTA」進路実現に向けた模擬面接」と題して、高知県立高知東工業高等学校PTA・中元ひとみ会長、第3テーマでは「地域コミュニティとPTA」地域に愛される学校をめざして」と題して、徳島県立徳島科学技術高等学校PTA・中谷秀久前会長から、それぞれユニークな実践・研究発表が行われ、活発な質疑応答・意見交換がありました。

昼食後には、徳島県の代表的な郷土芸能である「阿波人形浄瑠璃」と「阿波おどり」を社会人の専門家団体である「座」・「連」の皆さんが演じるアトラクションが披露され、参加者が見事な芸に引き込まれました。その後、船橋情報ビジネス専門学校広報室長・夏見台幼稚園保育園主の鳥居徹也氏を講師に、「親が子に語る『働く』意味」自己肯定感を育むくを演題とする講演が行われました。

閉会式では、次期開催県の島根県高P連・松尾強会長から、来年の島根大会の参加を待ち望む挨拶があり、第54回中国四国高P連徳島大会を終えました。



### 九州地区 ふくおか大会

#### つなげよう心と心、深めよう人と人との結びつき



子ども達の様子を見て、参加者に感動を

平成24年度九州地区高等学校PTA連合大会ふくめんね絆ふくおか大会2012は「つなげよう心と心、深めよう人と人との結びつき」をテーマに6月21日(木)・22日(金)の2日間に行われ、響灘・玄海の激しい潮流に面した九州の玄関口である北九州市に3340名余りの会員が参加しました。前日から台風4号、次の台風5号が接近中で、また大雨・台風(この時期、沖縄以外は毎年大雨)かと気を揉んでいたところ、22日朝は曇一つもない快晴となりスタッフ一同、明るい気持ちで参加者を迎えることが出来ました。21日の会議も無事終え、懇親会から全高P連・相川会長も参加され、祝辞の中で東日本大震災で被害に遭った子ども達の様子を語り、参加者に感動を

与えて戴きました。22日午前中の分科会は3会場で行われ、「青少年の健全育成」「進路指導」「地域コミュニケーション」とPTAの関わりについて12本の実践発表が各会場満席の中で行われ、熱心な質疑応答と各助言者からの指導・助言がありました。基調講演は「子どもの自立を支援する地域の教育力」をテーマに九州女子大学の島田先生のお話を伺い、4名から地域コミュニケーション(人と人が支え合う互助の精神、家庭の役割、絆の大切さ等々)に関する発表がありました。歓迎アトラクションは玄界高校邦楽部による和太鼓「新黒田節」と青豊高校ダンス部のヒップホップダンスを披露いたしました。開会式では、北九州市長が6月20日市議会本会議において、東日本大震災に伴い発生した災害廃棄物(がれき)の受け入れについて表明したことを披露し、日本国民同士の連係



と絆の大切さを訴えられました。記念講演では前福岡県知事・前全国知事会長で現在福岡空港ビルディング(株)社長の麻生渡氏から「志をもった青少年の育成を目指してPTAへの期待」の演題で多くの参加者に感動と感銘を与えてくれました。大会宣言では、未曾有の被害をもたらした「3.11東日本大震災」、「福島第一原発事故」を機に子ども達の意識も「世のため人のために生きたい」と人と支え合い協働することによって絆を作り出すという気運が出ています。子ども達に夢を持たせ、輝く未来を実現させるためにも、家庭・地域・学校が三位一体となって積極的に連携を図ることが不可欠であると宣言しました。閉会式では、次年度開催県の宮崎県からの挨拶があり、無事大会を終えることが出来ました。

高P連が募った義援金は、震災直後の平成23年3月23日以降、途切れることなく寄せられ続けました。1年3カ月となる24年6月22日までに総額1億1195万8570円に達しました。新体制に移行することなどもあり、全高P連はいったん、同日をもって募金活動に区切りをつけることとし、これまでの義援金収支報告をまとめました。今回の大災害は3月11日の地震、ただけではありませんでした。地震以上に津波が大きな被害をもたら

らしました。また、翌日に長野県北部で震度6弱を記録する地震が発生するなど、大きな余震も続きました。さらに、福島県の東京電力福島第一原子力発電所が水素爆発を起し、放射性物質の拡散という、だれもが経験したことのない事態に陥り、現在も深刻な状況が続いています。このようなか中で、総額1億円を超えた義援金は、震災で大きな被害を受けた青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、新潟、長野の8県に配分されま

義援金は校長立ち会いの下、単P会長から被災生徒に贈られた。写真は女川高校(宮城県)の贈呈式。



**シリーズ祝点**

## 東日本大震災

### 義援金報告



平成23年3月11日に発生した千年に一度といわれる東日本大震災は、東北地方を中心に広範囲で甚大な被害をもたらしました。全国高等学校PTA連合会は、震災直後から義援金を募り、全国から寄せられた寄付金の総額は約1年3カ月で1億1千万円を超えました。浄財は、家族を失った生徒や家を無くした生徒、学校運営やPTA活動が困難な状況に陥っている被災高校に届けられました。全国から事務局にもお礼の手紙が届いています。今回の「シリーズ祝点」は、皆様の善意で支援を受けた各県のPTA連合会からの報告をまとめます。(調査広報委員長 関根英樹)

した。配分はこれまで第4次まで行われています。1次配分は8県、2次配分は津波被害などの大きかった岩手、宮城、福島、茨城の4県、3次配分は被災生徒の賠償補償制度掛金助成。4次配分は原発事故の影響が続く福島県分として活用されています。なお、いったん区切りはつけましたが、震災の影響は今も高校生たちに深刻な影響を与えています。被災した生徒や学校、単位PTAに対する義援金の募集を今後も継続していくこととしておりますので、皆様の善意のご協力を今後もよろしくお願い致します。

■青森県高P連

昨年6月の全国総会において頂いた本県分400万円につきましては、青森県高等学校長協会にて被災資料に基づいて配分しました。家屋が全壊・大規模半壊・半壊となった18校52世帯に、6月29日それぞれ7万6900円をお見舞いとしてお渡し致しました。全国高P連相川会長あての礼状(一部)を紹介し感謝の報告と致します。「この地震を通じて、家族の大切さ、普段は他人である皆様からの温かいご支援など、一生経験できないかもしれない貴重な体験をしたのだと思っております。これから大学習業に向けて一生懸命立八戸西高等学校3年」

■岩手県高P連

全国高P連から合わせて2559万4300円の配分を頂きました。義援金は家屋の全半壊、全半壊、流失の他、保護者の収入の著しい減少など、県教委が定めた基準により各学校から受けた報告を元に、被災数に応じた金額を56校に配分しました。津波などで大きな被害を受けた本県の高

■宮城県高P連

全国から頂いた義援金は、臨時会長・副会長会議で使途について協議しました。1次配分の約2800万円は、保護者を亡くした生徒に支給することとしました。該当する生徒は221人もおり、各単Pを通じてお渡ししました。

■茨城県高P連

さらに、2次配分で約500万円を頂きました。2次配分は被災した学校のPTAに送り、復校に役立ててもらうことにしました。津波などで校舎が大きな被害を受けた気仙沼向洋、宮城水産など6校に各150万円、地域の被災が甚大な志津川、女川の2校に各65万円を送りました。

■福島県高P連

1次、2次、4次配分で合計3423万4370円を頂きました。震災と津波で34人の高校生が亡くなり、家計を担う父



全高P連本部に寄せられた被災者からのお礼状

■茨城県高P連

1次、2次配分で合わせて約1000万円を頂きました。本県では各高校への調査の結果、半壊2334人、全壊68人、津波被害を含む浸水

■千葉県高P連

未曾有の東日本震災により、千葉県では高校生の犠牲者こそいまませんでしたが被害は甚大でした。家屋全・半壊245人、床上・下浸水28人、津波による制服・授業用具の喪失など9人、液状化による避難場所からの登校など32人と合計314人の被害が確認されました。

■新潟県高P連

平成23年3月12日に発生した長野県北部を震源とするマグニチュード6.7

に立ち会った関係者も目を熱くしました。各地から「全国のPTAの皆様によりしくお伝えください」との言葉を頂いております。義援金は1次配分は保護者を亡くしたり、家が損壊した生徒に分配しました。2次配分以降は本来の校舎で活動ができなかったサテライト校を中心、浜通り各校の支援のために使わせて頂いております。すべての被災した生徒が全国の皆様の温かい善意に心から感謝しております。

母ら保護者を失った生徒も数多くいました。さらに、原発事故で現在も県民約16万人が自宅外での避難生活を余儀なくされています。高校自体が立ち入り禁止区域にあり、本来の設置場所で運営できない学校がある他、生徒がサテライト校に分散したり、寄宿生活をしたりにしているため、PTA活動もままならない単Pもあります。義援金は1次配分は保護者を亡くしたり、家が損壊した生徒に分配しました。2次配分以降は本来の校舎で活動ができなかったサテライト校を中心、浜通り各校の支援のために使わせて頂いております。すべての被災した生徒が全国の皆様の温かい善意に心から感謝しております。

69人の生徒がいることが分かりました。臨時役員会で配分方法を検討し、「県内5地区に被害に応じて配分し、地区事務局ごとに配分方法を検討することとしました。」

転が必要となった事務局に100万〜200万円の範囲で配分しました。さらに、本県では5月6日に竜巻による大きな被害が出たため、留保金の一部を被災者の見舞金としました。千年に1度の大地震と50年に1度の竜巻被害の見舞金として活用させて頂き、全国の皆様が大変感謝しております。

各校で生徒の住宅被害状況調査を実施した結果、申請のあった6人の生徒の保護者に送りました。送る際は各校長から「義援金が全国の保護者や生徒一人一人の温かい善意から集まったものであること」を伝えて頂きました。

家屋が半壊以上被災した該当者8人(8世帯)に、2次分の義援金を等分してお渡ししました。寄せられた感謝の声(礼状を以下に掲載します。「前略、今年一番の冷え込みで栄村も少しずつ雪景色になってきています。先日、学校より義援金の知らせを頂き早速頂戴致しました。家の方も修理し、なんとか家族5人元気に暮らしております。娘も進学致します。心温まる義援金を大切に使用させて頂きたいと思っております。感謝申し上げます」

ありがとうございます」

平成24年度 一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員名簿

役職名	氏名	地区名	県名	備考
会長	相川 順子	東北	青森	
副会長	三浦 啓亨	九州	大分	健全育成委員会担当
副会長	工藤 重信	東北	岩手	進路対策委員会担当
副会長	三輪 一朝	近畿	兵庫	研修委員会担当
専務理事(業務執行理事)	椎野 正敬	中四国	徳島	中国・四国地区会長、調査広報委員会担当
常務理事(業務執行理事)	北沢 好一			事務局長、全国高等学校長協会
理事	中島 圭	北海道	北海道	北海道地区会長、研修委員
理事	関根 英樹	東北	福島	東北地区会長、調査広報委員長
理事	金井 修	関東	群馬	研修委員長
理事	南村 和良	東京	東京	東京地区会長、健全育成委員
理事	毛利 一朗	北信越	富山	北信越地区会長、進路対策委員長
理事	稲垣 元美	東海	三重	東海地区会長、健全育成委員
理事	橋本 博文	近畿	京都府	近畿地区会長、健全育成委員長
理事	久保 裕	九州	宮崎	九州地区会長
代表監事	池内 勝彦	中四国	鳥取	退任理事
監事	村上 義人	北海道	北海道	
"	梅原 竜一	北信越	石川	
顧問	高間 專逸	北海道	北海道	前会長
顧問	高橋 正夫	九州	大分	元会長
相談役	藤井 久丈	北信越	富山	元会長
相談役	小栗 洋			全国高等学校長協会事務局長

健全育成委員会

進路対策委員会

調査広報委員会

研修委員会

役職	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名
委員長	京都府	橋本 博文	富山	毛利 一朗	福島	関根 英樹	群馬	金井 修
担当役員	大分	三浦 啓亨	岩手	工藤 重信	徳島	椎野 正敬	兵庫	三輪 一朝
委員	北海道	野村 光孝	北海道	山本 富造	北海道	長谷部直樹	北海道	中島 圭
"	宮城	富樫 宣朗	岩手	松尾 正弘	青森	住吉 治彦	秋田	佐野 元彦
"	茨城	廣瀬 正身	山梨	西山 正盛	神奈川	柳川 秀史	栃木	山本 孝雄
"	東京	南村 和良	東京	岩淵 賢次	東京	青木真佐枝	東京	稲船 千里
"	新潟	坂井 正人	長野	上条 正明	石川	梅原 竜一	福井	掛谷 龍一
"	三重	稲垣 元美	愛知	玉腰 崇之	静岡	鈴木 敏彦	岐阜	塩谷 博英
"	兵庫	山本 一誠	滋賀	押谷喜美子	大阪市	細川 茂	和歌山	西原 英男
"	愛媛	泉谷 睦美	島根	松尾 強	香川	泉 満	広島	毛利 葉
			熊本	田上 忍	佐賀	小出 邦彦	沖縄	北川 武一

賠償責任補償制度運営委員

役職	地区	所属	氏名	備考
委員長	九州	大分	三浦 啓亨	副会長
委員	北海道	北海道	宮川 恒美	道連事務局長
"	東北	青森	本谷 隆司	県連事務局長
"	関東	神奈川	柳川 秀史	県連会長
"	東京	東京	南村 和良	都連会長
"	北信越	新潟	丸田 堯	県連事務局長
"	東海	愛知	玉腰 崇之	県連会長
"	近畿	奈良	下高谷和成	県連会長
"	中四国	広島	土谷 流廣	県連事務局長
"	九州	熊本	田中 和幸	県連事務局長
"		全高P連	北沢 好一	全高P連事務局長

